福岡県立大学人間社会学部紀要
2024, Vol. 32, No. 2, 65－69

研究ノート

知的障害児の心理及び生理、病理に関する研究の動向について
―和文論文タイトルの量的な分析による考察―

菅　原　航　平*

要旨　知的障害を対象とした特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒は近年大きく増加している。これら児童生徒に対して十分な教育を行うことができる教員を養成するために、令和４年に特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムが定められた。その中で、知的障害者に関する教育の領域でも他の障害種と同様に心理、生理及び病理に関する科目を開講することが求められている。本報告では、直近５年間の知的障害に関する研究の動向を教職コアカリキュラムと関連付けながら検討した。論文検索の結果、論文タイトルに最も多く含まれていた語は「特別支援学校」であり、知的障害に関する研究は特別支援教育に関連するものが多くを占めており、学習や生活、教育課程、教科指導などをテーマにした研究が多くなっていた。「心理」や「生理」といったキーワードを含めて検討すると、教員養成課程の教育内容や心理特性、心理的・生理的な評価方法に関するテーマが複数みられた。

キーワード　知的障害、研究動向、教職コアカリキュラム、心理・生理・病理、テキストマイニング

緒言

文部科学省が公表している特別支援教育資料によると令和３年５月１日時点で特別支援学校の知的障害を対象とした学級の在籍者は小学部・中学部73,390名、高等部61,395名となっており、特別支援学級では146,946名の在籍となっている（文部科学省初等中等教育局特別支援課，2022）。直近10年間での変化について平成23年のデータと比較すると、少子化により全体の児童生徒数は約1割減少しているにも関わらず、特別支援学校の知的障害を対象とした学級の在籍者は小学部・中学部が1.28倍（2012：57,350名）の増加、高等部が1.14倍（2012：53,914名）の増加で、特別支援学級では1.75倍（2012：83,771名）と大きく増加している（文部科学省初等中等教育局特別支援課，2012）。このように知的障害を対象とした特別支援教育のニーズは年々増加しており、教職課程を持つ大学、特に特別支援学校教員養成課程ではそれに

＊福岡県立大学人間社会学部・講師

対応した教員養成が求められている。

令和４年７月に公表された「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム」(特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議，2022）では、知的障害者に関する教育の領域の心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目の一般目標は「知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。」と示されており、知的障害（児）の行動やその背景などを理解するための心理領域、生体機能などを理解するための生理領域、障害の要因や特性などを理解するための病理領域およびその相互作用などを中心に扱うことなどが定められている。

具体的な教授内容としては、勝二らが知的障害領域における心理・生理・病理に関する科目の教科書として執筆した文献（勝二（編），2022）では、主に、心理の領域では知的・適応機能とそのアセスメント、知的障害児の注意・記憶、学習、言語・コミュニケーションなどが取り上げられており、生理・病理の領域では、遺伝や人体の発生、知的障害の発生要因、感覚機能、運動機能、健康問題などが取り上げられている。

その他、特別支援学校教諭教員養成の心理・生理・病理の科目に関わる近年の研究に関しては、「特別支援教育」のテキストあるいはテキストに準じる書籍において、知的障害者に関する心理・生理・病理がどのように説明されているかについてテキストマイニングにより分析された研究（阪木，2023）では、階層的クラスター分析の結果、「必要な支援」、「染色体異常」、「原因分類」、「知能検査」、「特性の表れ」、「学習場面での対応」、「具体的な難しさ」、「一般特性」の８つのクラスターに整理されたことが報告されている。矢野ら（2018）の研究では、教員養成課程における知的障害の心理・生理・病理に関する講義のシラバスを分析した結果、半数以上で知的障害の適応機能に関する内容が明記されていたが言語とコミュニケーションに関する内容が多くを占めており、実用的な適応機能に関してはほとんど記載されておらず今後実用的な適応機能に関連づけて自立活動の内容を知的障害の心理・生理・病理の講義に盛りこむことが課題だと指摘しているものなどがある。

このようなことを踏まえ、本報告では、知的障害に関する国内の研究動向について過去５年間に発表された和文論文のタイトルの量的な分析を通して把握し、教職コアカリキュラムの内容と関連付けながら教職を目指す学生に教授する必要のある項目について確認する。

方法

(1)　分析対象

国立情報学研究所の提供する“CiNii Research”おいて、2018年から2023年の期間に登録されている「知的障害」がタイトルに含まれる論文を2023年11月16日時点で検索し、該当した2,087件のうち同一のタイトルであり重複登録と考えられた85件を除外した2,002件を分析対象とした。

また、この「知的障害」で検索に該当した論文のうち、さらに「心理」という語をタイトルに含む論文38件及び「生理」の語をタイトルに含む論文16件を抽出して別途分析を行った。

⑵　分析方法

分析対象とした、2,002件の論文タイトルについて、KH Coder（Ver.3.Beta.07f）を用いて語の抽出を行い語の出現回数を集計した。なお、語の抽出の際には、まず条件設定を行わず語の抽出を行い「知的障害」、「特別支援教育」、「特別支援学校」、「保護者」、「高等部」、「発達障害」、「障害者」、「自立活動」、「特別支援学級」、「小学部」、「自立活動」、「教育課程」、「障害者」、「発達障害」、「特別支援教育」、「肢体不自由」、「授業づくり」、「自閉スペクトラム症」、「現状と課題」、「障害児」、「保護者」など62の単語については、出現が５件以上確認できたため「特別支援学校」が「特別支援」と「学校」などと分割されて集計されないように強制的に１つの単語として抽出するように設定を行ったうえで再度抽出・集計を行ったデータを分析に用いた。

くわえて、階層クラスター分析を行い、分析対象は出現回数上位50位までの単語とするため、出現回数の最小値を52回と設定した。なお、分析方法Ward 法（距離Jaccard）を用いて分析を行った。

結果

⑴　全体の傾向

総抽出語数（使用）は43,773（22,954）で，異なり語数（使用）は3,722（3,187）であった。表１に「知的障害（児/者)」を除いた語を出現数順に示した。

「特別支援学校」という語が523回と最も多く出現しており、１本の論文のタイトルで主題と副題で重複して出現している場合もあったが、「知的障害」という語がタイトルに含まれる論文のうち約４分の１の論文が特別支援学校に関

表１　語の出現回数（上位100位までの単語）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
特別支援学校	523	行動	83	肢体不自由	49	コミュニケーション	36
支援	376	自立活動	81	自己	48	自立	36
教育	372	活動	79	目指す	47	対話	36
指導	259	福祉	79	高齢	46	特別	36
研究	238	子ども	77	内容	46	能力	36
生徒	214	教科	76	取り組み	45	変容	36
学習	181	発達	74	心理	45	意識	35
検討	177	分析	74	考える	44	個別	35
実践	175	教員	70	用いる	44	交流	35
児童	150	特別支援学級	70	実態	43	障害児	35
調査	139	伴う	69	授業づくり	43	保護者	35
課題	137	小学部	66	基づく	42	キャリア	34
生活	118	視点	65	機能	42	回	34
障害	115	向ける	64	教師	42	経験	34
活用	113	学び	63	自閉スペクトラム症	42	作成	34
考察	106	社会	62	理解	42	児	34
高等部	105	着目	59	関連	41	プログラム	33
授業	105	中心	59	学ぶ	40	教材	33
発達障害	101	教育課程	58	現状と課題	40	形成	33
人	100	評価	57	生涯	40	現状	33
重度	96	軽度	54	報告	40	主体	33
対象	91	開発	53	運動	39	性	33
効果	88	家族	52	地域	39	中学部	33
事例	87	就労	52	問題	39	連携	33
学校	86	スポーツ	51	在り方	38		
施設	85	特別支援教育	51	認知	38		
障害者	84	自閉症	50	作業	37		

連する報告であった。次いで、「支援」(374回)、「教育」(372回)、「指導」(259回）と続いていた。

また、緒言で触れた「適応機能」についてはタイトルに含まれる論文はなく、適応行動・スキルという単語が含まれる論文が７本確認できた。

⑵　クラスター分析の結果

階層クラスター分析では、福祉的な支援に関する語のクラスター（主な語：福祉（79)、施設（85)、障害者（84))、重度障害や重複障害などに関する語のクラスター（主な語：重度(96)、行動（83)、伴う（69)、発達障害（81))、研究方法などに関する語のクラスター（主な語：事例（87)、研究（238)、調査（139)、対象（91))、指導法などに関する語のクラスター(主な語：特別支援学級（70)、生活（118)、学習（181)、授業（105))、教育課程などに関する語のクラスター（主な語：特別支援学校(523)、教育課程（58)、教科（76)、自立活動(81)）といった５つのクラスターに整理することができた。

⑶　「心理」や「生理」という語を含む論文

「心理」をタイトルに含む論文38件では主なテーマは、心理教育（４件)、教員養成課程の教育内容（３件)、知的障害の心理特性（２件)、心理療法（２件)、知的障害の心理過程（プロセス）（２件)、心理学的な評価（２件）などとなっていた。

「生理」をタイトルに含む論文16件では主なテーマは、教員養成課程の教育内容（５件）や生理的指標（４件）となっていた。

まとめ

まず「特別支援学校」という語が最も出現回数が多くなっていることから分かるように、知的障害研究のテーマは、特別支援学校小学部（小学校）入学から特別支援学校高等部（高等学校）卒業まで発達段階の教育領域に関するものが最も多く、乳幼児期や成人期以降の研究や福祉領域での支援等はこれらの発達段階や教育領域の研究と比較して少なくなっていた。

クラスター分析の結果などと合わせて考察を行うと、特別支援学校に関連するテーマの中でも特に「教育課程」や「教科」、「自立活動」の「指導」などの語が含まれるタイトルが多くなっていた。このようなことから、心理・生理・病理に関する科目を教授する際にも、教育課程や教科等の指導法との関連を必要に応じて示していくことが教育課程・指導法、心理・生理・病理の双方についての学生の理解を深めるためにも必要があると考えられた。これは緒言でも触れたが、知的障害の定義においても重要となる適応機能などの心理・生理・病理の基礎的な知識と深くかかわる部分を教科や自立活動の指導など実践と結び付けながら学生に伝えていくことが重要であるとの指摘もなされていることにもつながる。しかしながら、「適応（機能)」に関連する語については直接的にタイトルに示される論文はシラバスの分析を行った先行研究の結果と同様に極めて少なく、知的障害の定義とも関連する重要な概念である適応機能の視点の教授は他の知識と関連づけながら意識して行う必要があると考えられた。

また、「重度」障害、「発達障害」や「行動（障害)」が「伴う」重複障害等に関する語が含まれるタイトルも多くなっていた。これは、教職

コアカリキュラムの（知的障害者に関する教育の領域）「併存症・合併症」についての補足の項目でも示されているが「特に、特別支援学校（知的障害）において、「自閉症」を併存する児童生徒が多く含まれていることに留意すること。」などの補足がなされるなど教職コアカリキュラムにおいても知的障害の併存症・合併症を十分に扱うことの重要性が示されており、実際に研究の件数としても知的障害と発達障害等との重複については多く研究がなされている。このようなことから、重度の知的障害や重複障害に関連する心理・生理・病理についても十分に授業計画に組み入れる必要があると考えられた。

さらに、「知的障害」という語に「心理」や「生理」という語を加えて行った分析では、心理的評価や生理的評価など「評価（アセスメント）」をテーマにした研究が複数みられた。これらは教職コアカリキュラムの到達目標の２)「観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解している。」といった検査や特性の把握といったアセスメント手法の部分と関連付けながら紹介をしていく必要があると考える。特に心理・認知検査や生理指標の測定などフォーマルなアセスメント方法・結果も活用した総合的なアセスメントは個別の指導計画等の充実には不可欠であり、教員としてこれらを活用していく基盤となるのが心理・生理・病理に関する知識であると考える。

今後、今回分析段階で作成した共起ネットワークの図（本稿未掲載）や階層クラスター分析の結果などを整理・図式化して、知的障害に関する研究（学習内容）の全体像を効果的に示すことで、学生が知識を関連づけながら知的障害に関する心理・生理・病理に関する知識を体系的に理解するなど教育効果を高めるための一助として活用していきたい。

引用参考文献

阪木啓二（2023）教員養成課程における知的障害児の心理・生理・病理に関する学びの促進～書籍のテキストマイニングを通して～　人間科学５巻，14-19

勝二博亮（編）（2022）知的障害児の心理・生理・病理　北大路書房

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2012）特別支援教育資料（平成23年度）文部科学省

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2022）特別支援教育資料（令和３年度）　文部科学省

特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議（2022）特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム　文部科学省

矢野夏樹・金彦志（2018）教員養成課程における知的障害の心理・生理・病理に関する教育課程の分析―知的障害の医学的診断基準の変化に基づく考察―　Journal of Inclusive Education ４巻，67-73